

セイヨウナシ「ラ・フランス」の収穫適期は早まっている

福島県農業総合センター 果樹研究所栽培科

部門名 果樹－その他－収穫

担当者 額田光彦・小野勇治・桑名篤・安達義輝

I 新技術の解説

1 要旨

セイヨウナシ「ラ・フランス」の収穫適期は温暖化などの影響により早まってきている傾向にあるため、改めて収穫適期の判定を行った。この結果、収穫適期は現行基準より早まってことが確認され、新たな収穫の目安として、収穫適期は生育日数(満開後日数)で160～165日頃、地色指数で3程度、硬度で11 lbs程度、デンプン指数で3～3.5程度が好ましい。

(1)平成20年産から平成28年産までのセイヨウナシ「ラ・フランス」の収穫適期を判定したところ、収穫の目安では、生育日数で160日～165日頃には地色指数は3程度で収穫適期に入っており(図1)、硬度も11.0 lbs.程度で収穫適期に入っており(図2)、デンプン指数も3.0程度で収穫適期に入っており(図3)、これらはいずれも現行基準から外れていた(表1)。

(3)追熟後の果実の食味調査では、満開後160～165日頃に収穫した果実の食味評価が高かった(図4)。

(4)追熟後の果実の果肉褐変障害の発生は、満開後170日以降に収穫した果実で多く見られた(図5)。

2 期待される効果

(1) 食味良好で、果肉褐変障害の見られないラ・フランスの果実生産が可能となり、商品化率を高めることができる。

3 適用範囲

県内全域

4 普及上の留意点

(1) 追熟試験は、収穫後5℃で約7日間予冷し、その後15℃で約15日間追熟させて調査に用いた。

(2) 8月以降が低温で推移した場合は、収穫基準は現行のとおりとする。

(3) 県北の調査結果であり、2008年より9年間調査した。

II 具体的データ等

表1 「ラ・フランス」収穫適期の現行基準及び新たな収穫の目安

	生育日数 (日)	地色 指数	硬度 (lbs.)	デンプン 指数
現行基準	165~175	2.5~3.0	11~12	1.5~2.0
新たな収穫の目安	160~165	3.0	11	3.0~3.5

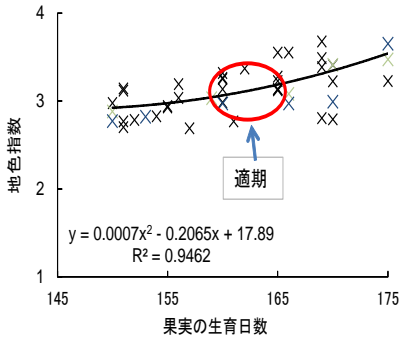


図1 成熟期の地色指数の推移

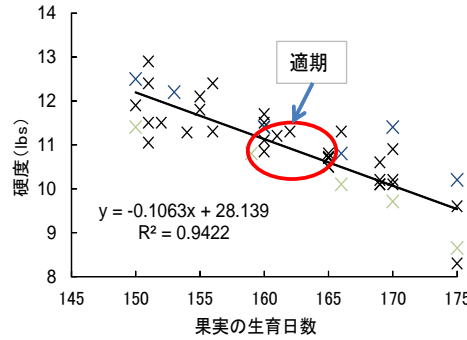


図2 成熟期の硬度の推移

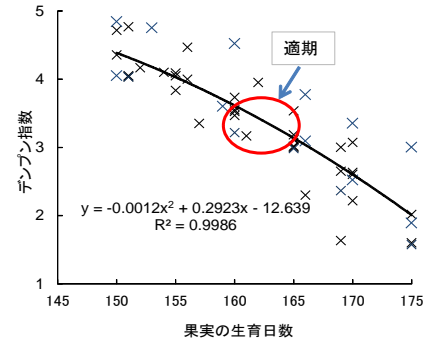


図3 成熟期のデンプン指数の推移

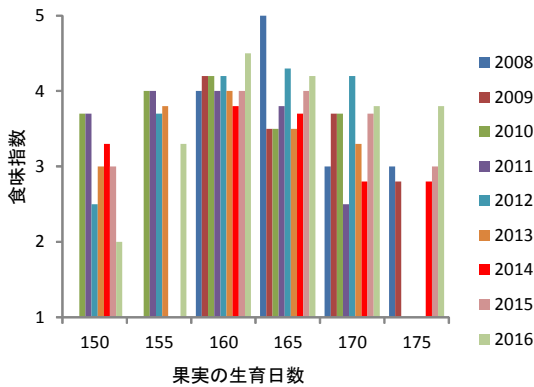


図4 追熟後の食味調査(1~5の5段階評価)

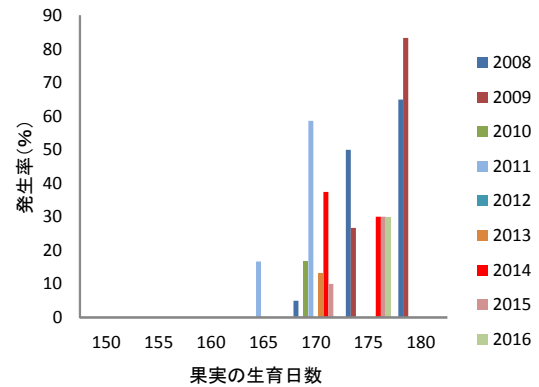


図5 追熟後の果肉褐変発生率

III その他

1 執筆者

額田光彦

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成20年度~28年度
- (2) 研究課題名 「ラ・フランス」の収穫適期と追熟条件の検討

3 主な参考文献・資料

- (1) 平成26年度参考成果 西洋ナシ「ラ・フランス」の果肉褐変の少ない収穫時期